

第3章 市民討議会のまとめ

1. 参加者アンケート結果

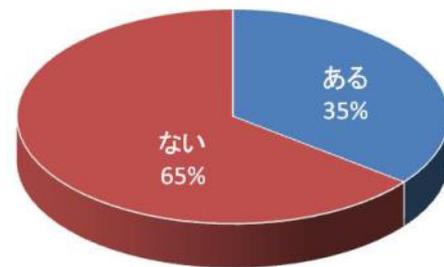
本市初の試みとなった、新しい討議手法を総合的に検証する一つとして、ご参加いただいた31名（2日目のみ出席した1名を含む。）の市民の率直な感想をお聴きし、今後のまちづくりに関する市民参加の在り方を検証するため、アンケートを実施いたしました。

〈アンケート結果〉

Q1 これまでに、今回のような討議会（参加者がグループに分かれ、特定のテーマに沿って話し合いを進める会議。ワークショップ等）に参加したことがありますか。

| | |
|-----|-----|
| ある | ない |
| 11人 | 20人 |

2/3近くの参加者が初めての参加であり、本討議会開催の大きな目標の一つである、まちづくりに関わる市民の裾野を広げるという点で大きな効果があったと言えます。



Q2 今回の参加依頼文を最初にご覧になったとき、どのように感じましたか。（自由記載）

（主なもの）

- ・このような場、考える機会に参加して見たかった。
- ・市民のアイデアで街が変わる事を期待した。
- ・必要なことだと思った。良い機会をもらったと思った。
- ・普段思っている、なかなか言う機会がなかったので、このような場がもっとあって良いと思った。
- ・本当にこのディスカッションは市民の為に役に立つのかと思った。
- ・石狩の事をもっと知って住み良い環境になったら良いと思い参加した。
- ・自分が経験した事が活かしたら、地元の為に何かお手伝いしたいと思った。

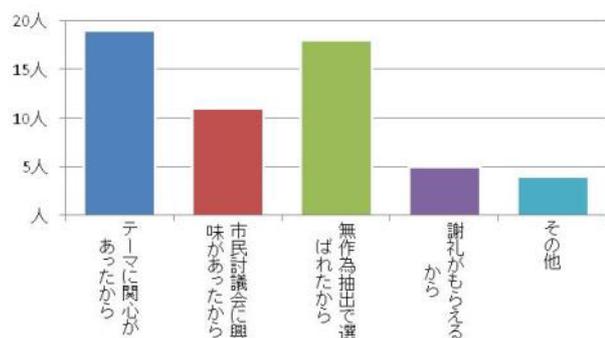
Q3 あなたが、今回の市民討議会に参加されたのはどのような理由からですか。（複数回答）

| テーマに関心があったから | 市民討議会に興味があった | 無作為抽出で選ばれたから | 謝礼がもらえるから | その他 |
|--------------|--------------|--------------|-----------|-----|
| 19 | 11 | 18 | 5 | 4 |

「その他」記載意見（主なもの）

- ・石狩市が好きだから。
- ・石狩出身なので、何か自分が石狩にできる事は無いかと思った。
- ・どの様な考えがあるのか聞いてみたいと思った。

「テーマに関心があった」が19人で最も多く、「市民討議会に興味があった」「無作為抽出で選ばれたから」が高い回答結果となっており、討議テーマの設定のほか、「無作為抽出」ということ自体も参加の動機づけにつながっていると考えられます。



Q4 今回の市民討議会は、候補者を無作為抽出し、有償参加、市民だけで討議するなどの特徴とするブランクスツェレの手法に準拠して実施しました。この会議の手法についてお尋ねします。

(1) 無作為抽出で参加者を募る方法についてどのように感じましたか。

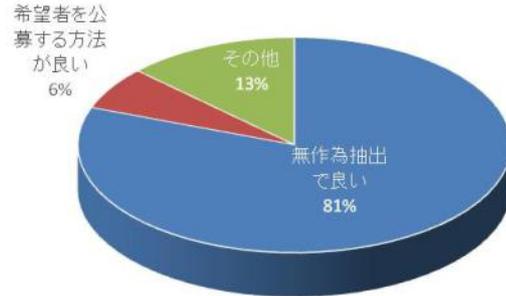
| 無作為抽出で良い | 希望者を公募する方法が良い | その他 |
|----------|---------------|-----|
| 25人 | 2人 | 4人 |

「その他」記載意見（主なもの）

- ・若者が参加しやすいようにした方が良い。
- ・希望者を募ってから、人数が足りない場合は無作為抽出するなど。
- ・高齢の方は（85歳以上）参加が難しいと思う。年齢制限しても良いのでは。
- ・厚田・浜益地区からも参加者を増やすべき。

無作為抽出で選出する方法で良かったとする意見が全体の約8割を占めています。

その他の意見では、高齢者の参加は厳しい、年齢条件を設定してはどうかといった意見がありました。また、若者が参加しやすいという点では、開催日程に関する再検討が必要と思われます。



(2) 2日間で5,000円の謝金をお支払いすることについて、どのように感じましたか。

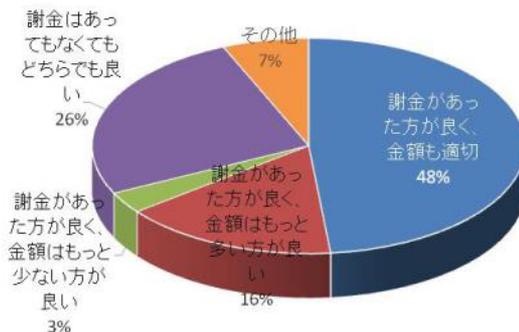
| 謝金があった方が良く、金額も適切 | 謝金があった方が良く、金額はもっと多い方が良い | 謝金があった方が良く、金額はもっと少ない方が良い | 謝金はあってもなくてもどちらでも良い | 謝金は必要ない | その他 |
|------------------|-------------------------|--------------------------|--------------------|---------|-----|
| 15人 | 5人 | 1人 | 8人 | 0人 | 2人 |

「その他」記載意見（主なもの）

- ・公正な世代の意見を拾うためには、もっと謝金が多い方がいいと思う。
- ・無しなら無しに、有りならもっと多くした方が良いと思う。
- ・参加していない人に謝金をうらやましがられました、疲労感はかなりです。

謝金の支払いについては、「謝金があり、金額も適切」が15人と最も多く、「もっと多い方が良い」「もっと少ない方が良い」を含めると、謝金の必要性は全体の7割近くを占めています。

その他の意見では、より幅広い意見を拾うにはもっと多い方が良く、金額に比べて疲労感はかなり強いといった意見がありました。



(3) 「地域食堂きすな」さんのご協力を得て、参加者の昼食をご用意したことに、どのように感じましたか。（複数回答）

| 昼食の提供があったと思う | 昼食時間を有効に過ごせた | 他参加者と打ち解けるきっかけにできた | 地元食材の良さを知られた | その他 | 昼食の提供はなくてもよかった |
|--------------|--------------|--------------------|--------------|-----|----------------|
| 30人 | 13人 | 16人 | 15人 | 2人 | 2人 |

「その他」記載意見（主なもの）

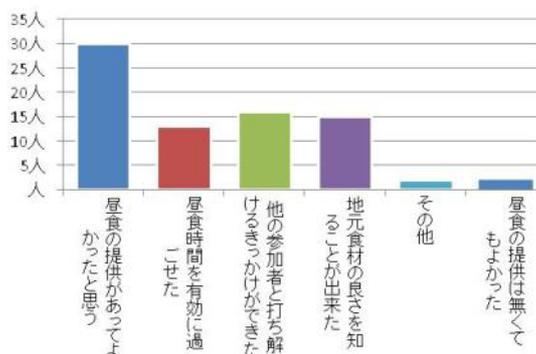
- ・地元食材といってもわからない。
- ・結果的により多くの方に「きすな」を知ってもらえたのは良かった。

「昼食の提供は無くてもよかった」理由

- ・自費でも払える人はいると思うので、最初に希望をとっても良いと思う。買わない人はお弁当を持ってくると良い。
- ・好き嫌いがあるから。

1日目、2日目共に昼を挟んでの終日開催としたことから、昼食を用意させていただいたことについては、ほとんどの参加者から支持を得ています。

また、内容を地元地域食堂としたことも好評価を得ています。



(4) 2日間開催（間隔3週間）という開催日数は適当だったでしょうか。

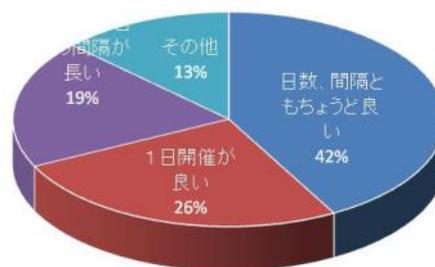
| 日数、間隔ともちょうど良い | 1日開催が良い | 1日目と2日目の間隔が短い | 1日目と2日目の間隔が長い | その他 |
|---------------|---------|---------------|---------------|-----|
| 13人 | 8人 | 0人 | 6人 | 4人 |

「その他」記載意見（主なもの）

- ・多忙の為、参加が非常につらかった。
- ・1テーマごとに、もう少し時間が必要だと思いました。
- ・2日間の開催でも良いのですが、1日の時間がもう少し短い方が良い。

開催日数等については、「日数、間隔ともちょうど良かった」が約4割となりましたが、「1日開催が良い」が8人、「1日目と2日目の間隔が長い」も6人など、日程に関する意見は分かれています。

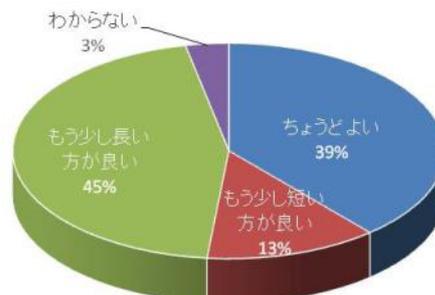
その他の意見では、参加が非常に辛かった、1テーマごとにもう少し時間が必要といった意見もあることから、開催日程やタイムスケジュールの配慮が必要と思われる。



(5) 1テーマあたりの討議時間は適当だったでしょうか。

| ちょうどよい | もう少し短い方がよい | もう少し長い方がよい | わからない |
|--------|------------|------------|-------|
| 12人 | 4人 | 14人 | 1人 |

1テーマあたりの討議時間については、「もう少し長い方がよい」が14人で最も多く、全体の半数近くを占めています。



(6) 今回のテーマは討議を進める上で適当だったでしょうか。

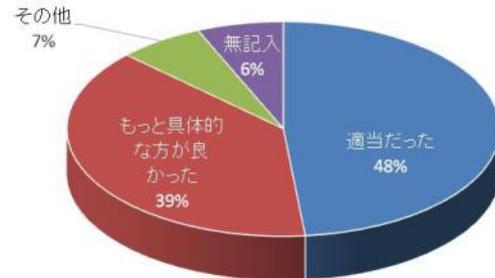
| 適当だった | もっと具体的な方が良かった | その他 | 無記入 |
|-------|---------------|-----|-----|
| 15人 | 12人 | 2人 | 2人 |

「その他」記載意見（主なもの）

- ・2回目はもっとテーマをしぼっても良かったと思う。
- ・テーマが難しいですが、良かったです。

テーマ設定については、「適当だった」が半数近くだった半面、「もっと具体的なほうが良かった」という意見も4割ありました。

その他の意見でも、2回目はもっとテーマを絞って良かったという意見もあるなど、分かりやすく、関心を引くような討議テーマの設定が大切であると思われます。



(7) 今回の日程設定（1日目：基調講演+2テーマをグループ討議、2日目：3テーマをグループ討議）は適当だったでしょうか。

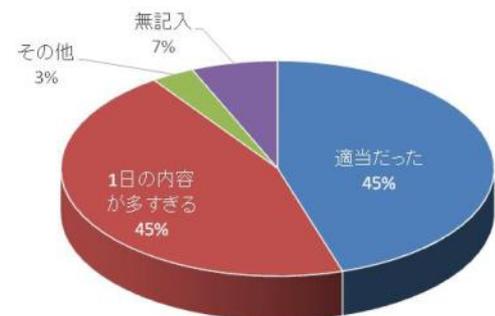
| 適当だった | 1日の内容が多すぎる | その他 | 無記入 |
|-------|------------|-----|-----|
| 14人 | 14人 | 1人 | 2人 |

「その他」記載意見（主なもの）

- ・時間に追われている感じだった。
- ・1日目と2日目のテーマがあまり関連していないと感じた。

日程設定については、「適当だった」と「1日の内容が多すぎる」が同数で意見が割れています。

その他の意見でも、時間に追われている感じだったとの意見がありました。



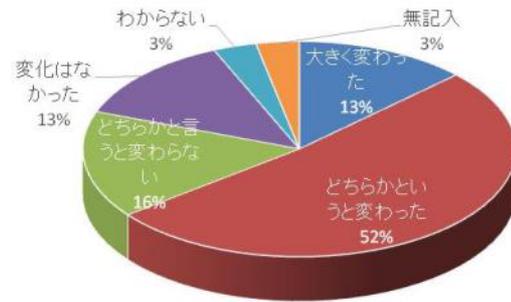
Q5 討議をしていく中で、「まちづくり」に関してご自身がこれまで持っていたお考えに変化はありますか。

| 大きく変わった | どちらかという と変わった | どちらかと言う と変わらない | 変化はなかった | わからない | 無記入 |
|---------|------------------|-------------------|---------|-------|-----|
| 4人 | 16人 | 5人 | 4人 | 1人 | 1人 |

「変わった」とする具体的な内容（主なもの）

- ・年代の違いで、まちづくりの理想、求めるものが違うと感じた。
- ・共感して頂ける部分も多く、また、自分の考え方の参考にもなった。
- ・石狩市民の一員である事を深く認識できた。
- ・石狩市がこんなに将来に向けて考えているとは思わなかったが、市全体がまだまだ関心が低いのではないかなと思う。
- ・もう少し積極的に自分の周囲の問題を解決する方向で町内活動に参加しようと思えた。
- ・個々では限界があるので、もっともっと人とのつながりを持っていきたいと思いました。
- ・今までまちづくりについて考えた事もなかったが、私達が考えて行動していかなければいけないのだと思いました。
- ・注文を出すだけでなく、自分達にできる事を考え、提案してゆく可能性を感じられた事。
- ・人口が減っていく事をまちづくりの前提とすることを強く意識するようになった。

まちづくりに対する心境の変化については、「大きく変わった」、「どちらかと言うと変わった」という意見が全体の6割以上を占めており、まちづくりに対する市民意識の醸成という観点においても、効果があると評価できます。



Q6 今回のような市民討議会は、今後も継続したほうがいいと思いますか。

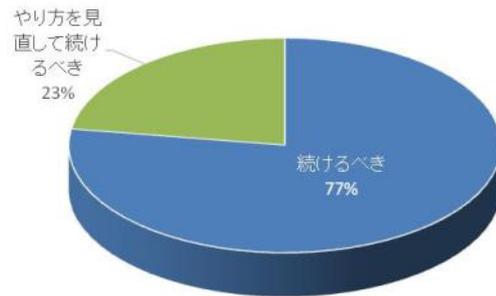
| 続けるべき | 続けるべきだとは思わない | やり方を見直して続けるべき |
|-------|--------------|---------------|
| 24人 | 0人 | 7人 |

「やり方を見直す」とする具体的な内容（主なもの）

- ・「子どもたち」や「年代別」のディスカッションはどうでしょうか。
- ・もっと必要な題を議論したい。
- ・書記、発表が苦手なので、まとめ役がいたらもっと気楽に今後も参加しやすい。
- ・日程、テーマ、謝礼、運営方法については問題ないと思います。ただ、高齢者が多く、若い人の話を聞くことが少なかったのが残念でした。
- ・各自考えている方は大勢いらっしゃいますが、意見を発表する場がない。
- ・もう少しテーマを狭くして。
- ・参加年齢に偏りがある為、日程、時間を見直して欲しい。

市民討議会を「続けるべき」、「やり方を見直して続けるべき」という意見で100%に達しており、市民討議会の継続に期待が寄せられています。

なお、「やり方を見直す」具体的な内容としては、討議テーマに関すること、参加者の年齢層、日程・スケジュールが挙げられています。



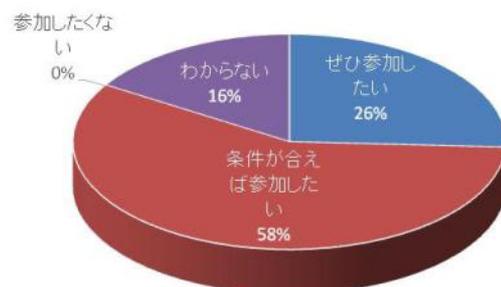
Q7 今後、同様の市民参加機会があった場合、参加したいと思いますか。

| ぜひ参加したい | 条件が合えば参加したい | 参加したくない | わからない |
|---------|-------------|---------|-------|
| 8人 | 18人 | 0人 | 5人 |

「条件が合えば」とする具体的な内容（主なもの）

- ・仕事を持っていますので、時間が折り合えば参加したい。
- ・日程、回数したい。
- ・一日は無理でも、夜とか回数を増やして。自由参加とか。
- ・1日開催ならば出たい。

今後、同様の参加機会があった場合には、約8割の参加者が、「ぜひ参加したい」もしくは「条件が合えば参加したい」としています。



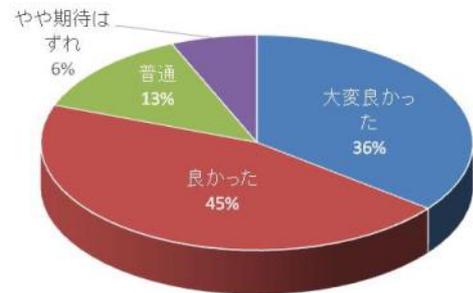
Q8 今回の市民討議会に参加してみでの感想を教えてください。

| | | | | |
|--------|------|----|---------|-------|
| 大変良かった | 良かった | 普通 | やや期待はずれ | 期待はずれ |
| 11人 | 14人 | 4人 | 2人 | 0人 |

回答の理由（主なもの）

- ・世代を超えた交流が出来たので、問題意識が高まった。
- ・身近な問題が多く、市民の多くが問題を共有できたと思います。
- ・討議会に出席した人が、とても真剣だったので、良かったと思います。
- ・世代も職業も違う方達と意見を出し合えて考え方や感覚の違い（自分の気付かなかった事）なども分かり、大変参考になった。
- ・年金をもらう時になり、地元のお金を作りたい、若い人を増やしたい、私なりに考えるスタートになった。
- ・石狩の良い所と悪い所などを改めて実感できました。
- ・あまりにも若い人の参加がないので残念です。もっと若い人の参加が多ければ斬新な意見も聞けたかも。
- ・思っていたよりも多くの意見が出され、石狩市民が地元へ愛着を持っている事が感じられました。
- ・普段話す機会があまり無い年代の方と意見交換が出来たから。
- ・自分はこれまで漠然としか考えてこなかった事に対して、具体的な面は少しずつ理解できてきたこと。

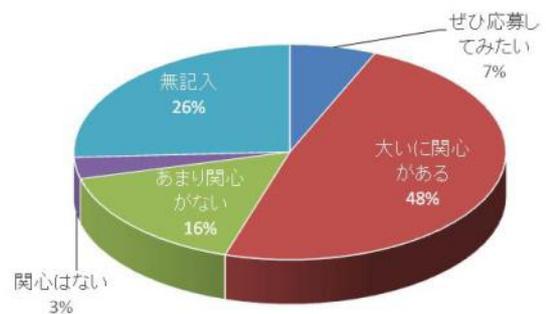
参加した感想では、全体の約8割の方から好評価を得ています。



Q9 市企画課では、11月から総合計画策定審議会委員の公募を予定しております。この機会に、あなたの声をさらに計画策定に活かしてみませんか。

| | | | | |
|-----------|----------|----------|-------|-----|
| ぜひ応募してみたい | 大いに興味がある | あまり興味がない | 関心はない | 無記入 |
| 2人 | 15人 | 5人 | 1人 | 8人 |

総合計画策定審議会委員に関心があるかについては、半数を超える参加者が「ぜひ応募してみたい」もしくは「大いに興味がある」としています。



Q10 その他自由記載（主な内容）

- ・高齢でしたのに参加させていただきました事に感謝。「住みよい街」づくりを学ぶことの大切さを感じました。
- ・小さな声が大きな声になると良いです。
- ・石狩市がどの様に変化していくのは、そこに住んでいる一人一人の思いが形となっていく時だと思いますが、その思いを一つとしていく行政やそれに関わる機関の動きはとても重要です。
- ・全てがスピード化し、デジタル化しつつある現代にあって、人間として心と心をつないでいく、顔と顔が見える事が大切になっていくと思います。
- ・討議方式に不慣れで今一つ入り込めなかった。高齢のゆえでしょうが。
- ・話題提供、講師の話が聞けてよかった。実践例の詳細データを見せてもらい知見が広がった。
- ・いしかりのまちづくりという大きなテーマでの参加、大変勉強になりました。
- ・いしかりはどんな所かという事が少しずつ見え、いろんな事に参加・手伝いなど、できる範囲でしていきたいと考えています。
- ・子どもと老人のテーマだけではなく若者中心テーマを。

2. 市民討議会の考察

(1) プログラムについて

プログラムについて、今回は1日目に大きなテーマ設定に基づいて話し合いをしていただき、その討議結果を踏まえて2日目にはより個別具体的なテーマについての話し合いをしていただき、「2段階」のプログラム構成といたしました。

このことは、「無作為抽出によって選出された一般市民」の方々による話し合いであることや、今回の事業が今後の市総合計画策定作業とも連動していることから、より多くの市民の方々の関心事を抽出しつつ、そのことについて討議を行っていただきたいとの意識から設定されたものです。

今回の討議結果を見ましても、今回のプログラムは一定の成功を収めたと考えております。

しかしながら、参加者アンケートのQ4(6)に見られるように、テーマ設定についてより具体的なテーマを求める声が一定程度あることからわかるように、より個別具体的なテーマ設定を行うことも、検討課題の一つであると言えます。

今後、同様の市民討議会の手法を用いた話し合いを行う際に、地域や行政で課題になっている個別具体的なテーマについてのプログラムを構築し、そのことについての討議を行うことも検討されているのではないのでしょうか。

なお、プログラムの構成上、述べ2日間に亘る開催日程となりました。このことは、参加者アンケートからはQ4(4)のように概ね好評で迎えられたようですが、無作為抽出による案内状を受け取った市民にとっては、討議会参加に対する一定の「障壁」となっていた可能性もあり、同種の討議会を行う際には要検討事項と言えるでしょう。

(2) 討議方法について

今回用いた「市民討議会」の手法では、各自の意見を付箋に記入し、それを元にグループ討議を行い、そしてグループとしての意見を3つにまとめるといった流れで進みます。これは、初めてこうした検討会に参加する方でも話し合いに参加しやすいように注意深く設計された手法と言えます。しかしながら、その話し合いが円滑に進むかどうかは、様々な要因が影響します。

今回の討議においては、付箋にアイデアを記入する作業については必ずしもスムーズではないグループも散見されましたが、話し合い自体は概ね活発に行われていたように思われます。なお、テーマごとの討議時間についてはQ4(5)のように、「もう少し長い方が良い」といった意見が多いことから、今後の運営方法については改善の余地ありだと思われます。

(3) 情報提供について

話し合いのテーマについての予備知識も関わり方もまちまちである市民討議会の参加者がスムーズに討議を行うに当たって、情報提供のあり方は最も重要な点であり、討議の質を大きく左右する要因と言えます。

今回の討議会に当たっては、参加者に適切な情報を提供するという観点のもとより、その内容が恣意的・誘導的にならないよう、出来るだけ外部からの情報提供者を招聘するよう努めました。また、2日目に当たっては「まちの事例紹介」による身近な具体例と、外部から招聘した「情報提供者」による客観的かつ網羅的な情報提供の2本立てによって、情報提供の幅広さ

と深さの両立を目指しました。

これらの狙いについては、各テーブルでの活発な議論を見る限り、概ね成功したと評価してよいのではないかと考えております。しかしながら、出された討議結果の「まとめ」には、既に石狩でも取り組まれている事例への言及が散見されました。無論、既に行われている事例への要望が討議結果として言及されるという「ギャップ」の存在自体が、今後のまちづくりにおける課題を指し示していると思えることもできますが、各グループでの話し合いの状況に応じて、その時点で話題になっている事項についての補足的な情報提供を行うなど、情報共有を工夫することによって、さらに議論を深められる可能性があるのではないかと考えられます。

(4) 投票について

参加者全員に持ち点を5点配点し、「良いと思う意見」について1つの意見に最大3点までというルールで投票していただきました。

その結果について振り返ってみますと、「テーマごとの分類と得票率」を見てもわかるように、ほぼ同じような意見でも得票数にバラつきが見られることがわかります。そこでわかることは、個別の意見について得票数が少ないからと言ってその意見の評価が低いというわけではないということです。しかしながら、テーマごとの得票率を確認することによって、会場全体の意見集約や、テーマごとにどのくらいの支持があるのかという傾向を把握することができるのではないのでしょうか。

なお、本来の市民討議会手法であれば「残したい意見」は投票の対象とならないのですが、我々の不手際により「まとめ」の意見と同様の扱いとなってしまう、実質的にはまとめの意見が各グループから4つずつ提出されるような形となってしまったのは反省点です。

(5) 運営方法について

グループ討議の運営については、グループ分けは初回のみ性別・年齢・居住地域などの属性によって主催者側で振り分けを行いました。2回目以降は毎回くじ引きによって次回の話し合いグループを決めていただきました。また、グループの中から「進行」「書記および発表」の担当者を毎回決めていただき、青年会議所メンバーは進行補助としてタイムキーパー等の作業を行いました。進行役を主催者側で担当しなかったのは、参加者による主体的かつ自主的な討議を行っていただくためであり、毎回の討議ごとにグループ替えを行ったのは、固定されたメンバーによる討議だと、どうしても役割や意見の固定化を避けることができず、またより多くの方との自由闊達な議論を行っていただきたいと考えたからであります。

結果として、主催者側の恣意的かつ誘導的な進行に陥ることなく、参加者の皆様による主体的かつ自主的な議論が行われたと考えますが、グループによっては討議の進行状況にかなりの差が出たことは反省点として挙げられます。

(6) 謝金について

討議に責任を持って「仕事」として参加していただきたいということから、謝金としてお一人あたり5,000円を用意させていただきました。なお、この謝金は2日間に渡って参加した方を対象にお渡しすることといたしました。

その他、石狩の食材を随所に使用した昼食もご用意させていただきました。これは、参加者

の皆様、より石狩を知っていただきたいとの考えからご用意させていただいたものです。

参加者アンケートQ4(2)の回答では、謝金については金額を含めて概ね妥当であるとの評価が多かったですが、謝金があってもなくても良かったという方が一定程度いらっしゃったことに石狩市民の参加意識の高さを垣間見たように思います。とは言え、拘束時間の長さなども勘案すると一定程度の謝金のお支払いは必要だと考えます。

(7) 広報について

今回の市民討議会「いしかりまちづくりディスカッション2013」については、市広報や北海道新聞地域欄で掲載していただいたことや、平成25年度の市長市政執行方針にも記載されたこと、市内各所に告知ポスターを貼っていただいたこと、さらには青年会議所と石狩市との協働事業として開催されたという経緯もあり、広報活動は順調に進んだものと考えます。また、一般社団法人千歳青年会議所の事例に習い市内各団体の方をお招きし、市民討議会と同様の手法で話し合っていた「いしかり地域討議会」を開催したことも、告知度の向上に一躍買ってくれたものと思われまます。

1000通発送した案内状に対して応募者が当初38名、最終参加者30名*ということで、応募率は他地域のケースと比較して特段高いわけではありませんでしたが、2日間開催かつ両日参加必須という参加条件を鑑みると市民からの反応は比較的高いものと捉えることができると考えます。なお、不参加者にもアンケートにご協力いただくことによって、参加への障壁にどのような要因があるのか探る等、今後に向けて大変有益な情報を得ることが可能であったと思われ、この点は反省点が残る結果となりました。

*両日ともに参加された方

3. 本報告書の取扱いと今後の検討課題

本報告書は、平成25年9月15日と10月6日の両日に開催された市民討議会『いしかりまちづくりディスカッション2013』の討議結果を記載するとともに、石狩市内においては初めての開催となった市民討議会の可能性と今後の展望を検証することによって、その開催意義について考察することを目的として作成されました。

本報告書は石狩市長あてに提出される他、市民討議会参加者に配布されるとともに、石狩青年会議所ホームページ、石狩市ホームページから誰でもデータにアクセスすることができます。

本報告書は、平成27年度中のスタートを目指して策定作業中の「第5期石狩市総合計画」に活かされるとともに、今後のまちづくりの様々な場面で活用されることが期待されます。

4. 結びに

この度の市民討議会は、石狩市では初の試みということもあり、多くの試行錯誤を経て開催にこぎつけることができました。

無作為抽出によって選ばれた市民によって行われる話し合いであるため、いわゆる「サイレントマジョリティ」と言われる、まちづくりに対してこれまで意見を表明する機会がなかったような方の意見を、今後のまちづくりに活かすことが出来る手法であります。このことをもう少し詳細に検証すると、有識者や公募委員による従来型の話し合いと比較した無作為抽出のメリットとして、1) 参加者の人選等で、主催者側の恣意性が働く余地が少ない、2) 通常参加しないような市民に参加していただける可能性がある、3) 本来の地域社会により近い形で、参加者が構成されることが期待できる、4) 直接の利害関係がある方ばかりではなく、多くの市民に参加機会の公平性を担保できる、等があると考えられますが、今回の市民討議会でもこれらのことは十分示すことができたのではないかと考えております。

また、市民討議会を開催することの効用として見逃せないのは、参加者の市民的公共性を醸成する側面です。今回の参加者アンケートを見ても、Q7の今後同様の事業があった際の参加意思について多くの回答者が参加を希望しておられます。さらにはQ9の審議委員公募に関しても意欲を示される回答者が多く、今回の市民討議会が石狩のまちづくりに対して参加意識を醸成する一つの機会となったことを窺わせます。Q5のまちづくりに関する意識変化と併せ、こうした「副作用」は住民アンケート等に見られる他の直接参加手法では期待できない、市民討議会のような「熟議」型市民参加ならではの効用ではないでしょうか。また、熟議民主主義によるコンセンサスの形成過程は、単純なアンケート調査などによる問題点を克服し、多様な意見を集約していく『場』をも生み出す力を持っていると考えます。

これらのことから、「より多くの市民が地域の公共に携わっていく新たな仕組み」の一手法としての市民討議会の有用性は、今回の事業で十分実証できたのではないかと考えます。今後の課題としては、この市民討議会という手法をより有効に活用するためのテーマ設定やプログラム構成の検討を挙げたいと考えます。参加者アンケートの回答を見ても、より個別具体的なテーマ設定を望む声が一定規模ありました。また、討議時間の短さを指摘する声の多さは、プログラム構成や進行管理にさらなる改善を迫るものです。地域でより必要とされている課題を発掘し、その課題に対する「一般市民の集合知」を練り上げていくための仕組みとして、この市民討議会が成長していくことを願ってやみません。

最後になりますが、市民討議会の有用性と可能性は本事業に関わった多くの方が共有できた「手応え」として感じていただけたのではないのでしょうか。「協働によるまちづくり」を掲げるこの石狩市に、もう一つの市民参加手法としてこの市民討議会に見られるような「熟議民主主義」が根付き、本市の市民参加がさらに高いステージへと進化していくことを一市民としても期待していきたいと思っております。

石狩青年会議所 地域創造委員長 松尾拓也